



贈DVD光盘

日语教学必备丛书

日语教学法入门

(日) 高见泽孟 著 黄文明 编译

日本語教育に携わるすべての方へ。
「これだけは」知っておかなければ
ならない知識が満載です。

外语教学与研究出版社

日语教学必备丛书

日语教学法入门

(日) 高见泽孟 著 黄文明 编译

日本語教育に携わるすべての方へ。
「これだけは」知っておかなければ
ならない知識が満載です。

外语教学与研究出版社
北京

京权图字: 01 - 2009 - 0745

Copyright by Hajime Takamizawa 2004
Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

日语教学必备丛书. 日语教学法入门 / (日) 高见泽孟著; 黄文明编译. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2009.6

ISBN 978 - 7 - 5600 - 8710 - 8

I. 日… II. ①高… ②黄… III. 日语—教学法 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 095746 号

universal tool · unique value · useful source · unanimous choice



悠游外语网

www.2u4u.com.cn

外研社全新推出读者增值服务网站, 独家打造双语互动资源

欢迎你:

- 随时检测个人的外语水平和专项能力
- 在线阅读外语读物、学习外语网络课程
- 在线观看双语视频、名家课堂、外语系列讲座
- 下载外语经典图书、有声读物、学习软件、翻译软件
- 参与社区互动小组, 参加线上各种比赛和联谊活动
- 咨询在线专家, 解答外语学习中的疑难

此外,你还可以通过积累购书积分, 兑换图书、电子书、培训课程和其他增值服务……

你有你“优”, 你的优势就是你的拥有。即刻登录, 抢先体验!

出版人: 于春迟

责任编辑: 俞 霓

封面设计: 张 峰

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京京科印刷有限公司

开 本: 787×1092 1/16

印 张: 12.25

版 次: 2009 年 6 月第 1 版 2009 年 6 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978 - 7 - 5600 - 8710 - 8

定 价: 37.00 元 (赠 DVD 光盘一张)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 187100001

出版说明

为满足日语学习、研究者以及初涉日语教学的教师等各方面、多层次的需求，我社特地推出了《日语教学必备丛书》系列。本丛书收录内容丰富，既有适用于初学者的语音、语法教学方面的介绍，也有对日语研究者最关注的新型理论研究成果的讲解，还包括对日语教学中涉及到的功能句型、词汇、语法等方面的具体知识的指导，同时还广泛涉猎了与日语教学相关的语言、文化等方面的理论研究等。本系列覆盖面广，讲解精细，是对日语教学经验的介绍和总结。

《日语教学法入门》为其中的一册，本书内容大致如下：

本书引进自日本 ASK 出版社（『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』），是一本可读、可听、可看的全方位日语教学用书。本书作为日语教学的入门用书，根据日语教育现状，结合最新理论成果，对各种教学法作了详尽的介绍，并配有现场课堂教学实录，能有效地提高课堂教学效果。书后附有日本已出版的教学方面的推荐用书。为了方便读者的理解，书中对部分术语作了相应的编译。

本书附赠 DVD 光盘（『DVD はじめての日本語教育 2』）。

外语教学与研究出版社

はじめに

本書は、日本語教育の「教授法」の入門書です。最新の外国語教授法理論を踏まえて、多様化の進む日本語教育でどのような「教育方法」が望ましいかを平易に解説してありますので、教育現場ですぐに役立つ情報が多いものと自負しております。

近年は、「脱教授法の時代 (The post-methods era)」などといわれていますが、これは適切な教授法が存在しないという意味ではなく、学習者のニーズやレディネスに合わせて各種教授法の長所を生かした教授方法を採用ことが求められている時代になったということです。

本書では、日本語教育の現状の分析に基づき、最新の言語教育関連理論の成果も取り入れて教授法の理論とその実施方法を学習レベル別に具体的に解説してあります。これらを参考にして、担当する外国人学習者にふさわしい教授方法を研究してください。

なお、本書には、レベル別の指導法を具体的に解説するために「DVD はじめての日本語教育 2」を用意してありますので、参照しながら実際の指導に役立てていただければと思います。

著者 高見澤 孟

目次

第1章	日本語教師の役割	7
第2章	日本語を教えるということ	21
第3章	初級の教え方（1）発音／会話	43
第4章	初級の教え方（2）文字／読解	81
第5章	中上級の教え方（1）会話／聴解	95
第6章	中上級の教え方（2）読解／情報収集	113
第7章	中上級の教え方（3）その他のクラスの指導	123
第8章	評価と試験	135
第9章	いろいろな外国語教授法	147
日本語教材ガイド		175
参考図書ガイド		183
確認問題・課題 解答例		186
INDEX		188

本書の特色

本書は、日本語教育に全く携わったことのない人のために、日本語の教え方をわかりやすく解説しています。また、日本語教育能力検定試験対策の入門書としてもご使用になれます。本書で得た基礎的な知識は、専門書をお読みになるときの助けとなるでしょう。

●**全体構成：** 本書は9章に分かれています。1～2章で日本語教育全体にかかわること、3～4章で初級の指導、5～7章で中上級の指導、8～9章では日本語教育にかぎらず外国語教育全般にかかわる評価法・外国語教授法についてそれぞれ解説しています。

●**考えてみましょう&課題：** 本書は要所要所に問題を用意し、主体的に学べるような工夫がなされています。

※「考えてみましょう」についての解説は本文中に、「課題」の解答・解説は巻末に用意されています。

●**日本語教材ガイド&参考図書ガイド：** 巻末には、代表的な日本語教材と参考図書のリストが用意されています。はじめて教材を選ぶときなど、どんな教材を使用すべきか迷うときには、日本語教材ガイドをぜひ参考にしてください。また、もう少し専門的に学びたいという方は、参考図書ガイドの中から自分に合った本を探されるとよいでしょう。

「DVD・はじめての日本語教育・2」のお知らせ

「DVD はじめての日本語教育・2」は、それぞれ本書の以下の章に対応しています。

DVD はじめての日本語教育・2

—初級の指導—

第一部 発音・会話の教え方 ……第3章

導入 第一段階 聞き取り練習
第二段階 発音練習
第三段階 流暢さの練習
第四段階 役割別練習

定着 文型練習

実践 コミュニケーションのための創造的練習
自由選択練習／ロール・プレイ

第二部 文字の教え方 ……第4章

—中上級の指導—

第一部 会話指導 ……第5章（第3章）

ロール・プレイ／シナリオ・プレイ
シミュレーション練習／プロジェクト・ワーク

第二部 実物教材を使った指導 ……第6章

テレビドラマを使った授業／ニュース番組を使った授業

本書を読みながら、要所要所でDVDを参照することで、より一層理解が深まります。実際の指導風景に解説が加えられている構成です。指導のノウハウだけではなく、実際の教室の雰囲気もつかむことができます。とくに、実際に教えたことのない方は、DVDをご覧になることで、自信をもってはじめての授業にのぞむことができるでしょう。

第1章

日本語教師の役割

- 1 教師は何をするのか 8
- 2 教師に求められる条件 14

みなさんは日本語教師に対してどんなイメージをお持ちでしょうか。

「日本語」を「教える人」でしょ？

—では「国語教師」と「日本語教師」の違いは？

日本人だったらだれでも簡単になれるんだろ？

日本語が話せるんだから。

—例えば助詞の「は」と「が」の違いを説明できますか？

国文法は得意だから、すぐにでも教えられるわ。

—日本語のわからない学習者にどうやって文法の説明をしますか？

そもそも「日本語教師」とはどんな職業なのか、
ようか。日本語教師の果たす役割からみていきましょう。

1 教師は何をするのか

日本語教師は、外国人学習者に日本語を教えるのが仕事ですが、それ以外にもいろいろとすべきことがあります。その代表的な業務には次のようなものがあります。

Ⅰ 教育計画を立てる「役割」

教師は、学習者が最も効率的に学べるようにするための教育計画を立てます。これはコース・デザイン（course design, ）とも呼ばれますが、学習者の目的や学習条件を考慮して作成します。教育機関に勤務する教師の場合、コース・デザインは幹部職員の仕事になりますが、そんな場合でも、担当する学習者のさまざまな条件を考慮して自分なりのコース・デザインを考え、授業をそれに沿って行うよう配慮するだけでも効果が上がるものです。

 **コース・デザイン**
学習者に最適な教育計画を設計すること。

课程设计
设计最适合学习者的教学计划。
（参照第23页）

Ⅱ 日本語を紹介する「役割」

学習者に日本語を紹介し、その文法や用法を説明するのは、教師の主要な仕事の一つです。テキストあるいはシラバス（）に沿って、学習すべき項目を提示し、さらにその文法や用法の例文などを示して、学習者の理解を深めるのです。

 **シラバス**
教授項目、教授細目。

教学大纲
教学项目、教学详细内容。
（参照第31页）

Ⅲ 定着のための練習を指導する「役割」

紹介した日本語を「使えるように」訓練するのも、最も重要な教師の仕事です。練習の方法や技術は、教授法によってさまざまな種類がありますが、指導対象や育成すべき能力によって異なった練習方法を採用することになります。したがって、教師はいろいろな教授法の指導技術に熟達する必要があります。（）

 （参照第46页）

Ⅳ コミュニケーションの相手を勤める「役割」

学習者が実際のコミュニケーションを行う前に、学習した日本語を実際に使う「模擬体験」が必要です。クラスでの授業は、教師が学習者を

指導することを前提に行われますが、その経験だけで、いきなりクラス外の社会でコミュニケーションを試みるのは、初級の段階では危険が伴います。実社会でのコミュニケーションでは、テキストで導入された言語材料（文法や語彙など）の範囲内で行われるクラス活動と違って、制約のない自然な話し方に対応しなければならないため、うまくいかない場合には、挫折や自信喪失に陥る可能性もあります。

それを防ぐ手段として、模擬会話練習（㊦）が不可欠です。その相手役としては、学習者の能力を熟知し、しかも学習者が気楽に話せる教師が最適なのは言うまでもありません。模擬会話練習は、「クラス」と「現実社会」を結ぶ掛け橋であり、これを通して、学習者にコミュニケーションに対する自信を与える段階でもありますから、教師にとって重要な業務になります。

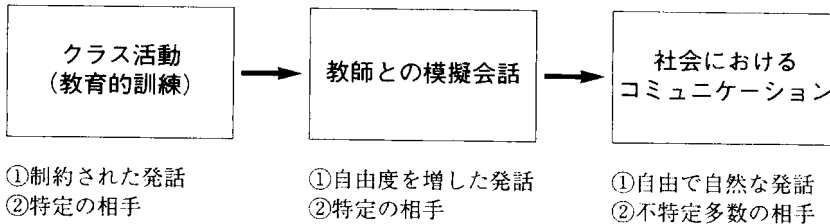
㊦ 模擬会話練習

ロール・プレイやシミュレーションなど。

模擬会話練習

角色分配练习、真实情景模拟等。

【図1 コミュニケーション能力育成の段階】



V 学習者の心理を管理する「役割」

学習者の心理状況は学習の成果を左右します。教師はどう教えるかだけでなく、学習者がどう学習しているのかを知る必要があります。後者に大きな関わりがあるのが学習者の心理状況です。外国語の学習は、母語（㊦）とは異なったシステムをもつ目標言語（㊦）の発音や文法、用法を新たに身に付けるプロセスですから、学習者はいろいろな不安を抱いて学習をしています。その「不安」の主なものは以下のとおりです。

㊦ 母語 (mother tongue)

生まれて最初に習得する言語のこと。母国で使われている母国語と一致しているとは限らない。

母語

出生后最初掌握の语言。不一定与在祖国所使用的祖国的语言相一致。

—学習者の抱える不安—

①目標言語に対する不安

目標言語が体系的に学べる言語なのかどうかについての不安。欧米人は漢字の学習を始めたときに、しばしばこのような不安を抱くことがあります。

㊦ 目的言語 (target language)

学習しようとしている言語。

目的語

学習者要学习的语言。

②目標達成に関する不安

目標言語が予想以上に難しいと感じた場合に生まれる、目標が達成できずに、学習が無駄な努力に終わるのではないかという不安。言語系列の異なる母語を持つ学習者が、初級、中級段階で進度が遅いと感じた場合、焦りから出てくることがあります。

③誤りを犯すことへの不安

授業中に誤りを犯して、教師の期待を裏切るのではないかという不安。自分が間違いを犯すことに耐えられないエリート・タイプの学習者や自身喪失型の学習者によく見られます。

④恥をかくことへの不安

クラス・メイトの前で誤りを指摘されるなどの恥をかくことに対する不安。自意識の強い欧米人学習者によくみられる意識過剰が生む不安です。

⑤能力不足に関する不安

目標言語を習得するための能力が欠けているのではないかという不安。カリキュラムの進度が速すぎたり、学習項目が一度に大量に与えられたり、教師が必要以上に厳しく誤りの訂正を行ったりすると、このような不安が生じてきます。

学習者が不安を抱いている場合には、授業への参加が消極的になり、発話活動なども誤りを避けようと、できるだけ短い発話ですまそうとするようになります。言語教育は、授業において学習者がことばの用法を理解し、同時にそれを使う経験を積むことを通して「使う能力」を育てるのが目的ですから、学習者が消極的になってしまったら、効果を上げることはできません。

学習者の不安を取り除き、リラックスさせて積極的に授業に参加させるには、教師が学習者の心理状況をよく観察し、それをうまく操作することが必要です。一般的に教師が配慮すべきことには、以下の点があります。

ー学習者をリラックスさせる措置ー

①教材を学習者の能力・レベルに合ったものにする。

不適切な教材は、学習者に焦りや失望感を与え、教育に対する不信や不安を抱かせる原因になります。教材のレベルや一回の授業で導入する教授項目の量は、学習者の能力を十分に配慮して決めなければなりません。

②教材の内容を学習目的に沿ったものにする。

教材の内容が学習目的に沿っていない場合、学習者は「こんなことをして目的が達成できるのか」と不安を感じ、学習に集中できなくなります。教材の内容は目的の達成を予感させるものにするのが大切です。

③学習計画を十分に説明する。

学習者に学習の全体計画を理解させ、現在の段階と将来の見通しを説明して、目的達成に何が必要であるかを話し合っておくことも、学習者の不安を取り除く上で、大きな効果があります。

④学習者とよい人間関係・信頼関係を保つ。

教師と学習者の人間関係・信頼関係は学習の成否に大きな影響を与えます。教師を信頼していない学習者は、教師の指導を無視したり、クラス活動に積極的に参加しないなどの行動を起こしますから、学習効果が上がるはずはありません。

⑤過度の誤用訂正を避ける。

教師にとって学習者の間違い（＝誤用）をどう扱うかは、非常に難しい問題です。教師が学習者の誤りをすべて取り上げて、しかもそれを徹底的に矯正しようとすれば、学習者の緊張は高まり、クラス・メイトに対するメンツの問題もからんで、多くの場合、学習者は消極的になってしまいます。極端な場合には、学習者は、「はい」と「いいえ」しか言わなくなります。これでは学習効果は上がりません。学習者のプライドを傷つけずに、不安を与えないように誤用を扱う必要があります。（☞）

☞（参照第54頁）

⑥クラスの雰囲気を楽しいものにする。

学習者が緊張する原因としては、クラス・メイトとの人間関係も挙げられます。クラスで学習者同士が感情的に対立したり、仲が悪かったりした場合には、互いに誤りを冷笑したり、成功を無視したりするようになるので、相互に緊張が高まり、効果的な授業は難しくなります。教師はこのような事態を避けるために、学習者相互の人間関係にも気を配り、クラスの雰囲気を楽しいものにするよう努力しなければなりません。

学習者の不安を取り除き、学習者自身の日本語の授業に対するイメージを改善することによって、教師はクラスでの学習者の積極性を引き出し、学習効率を向上させることができるようになります。

VI 教育を評価する「役割」

この場合の「評価」は、学習者の成績を決めるという狭い意味の評価ではなく、教育全般を検討して、問題点を発見し、その対応策を実施して、教育を改善することが目的です。したがって、評価の対象は、コース・デザイン（) やその実施方法、学習者の能力、学習態度、教師の能力など広範囲に及びます。日本語教育の評価の主な項目は以下のとおりです。

 (参照第23頁)

①コース・デザインに対する評価

教育を始める前に、学習者に最適の教育を行うためのコース・デザインを作成しますが、教育を実施した後でさらに検討を加えて、その適否を判断し、問題点があれば、解決策を考案して改善に努めます。

②教材に対する評価

現在使用している教材がはたして学習者の学習目的達成に役立つものであるかどうかを検討し、問題があれば、教材を変更するなり、補助教材を準備するなりして、その欠陥を改善します。一度採用を決めたテキストでも、問題があるとされた場合には、変更や他の教材との併用などの措置を早急に決めることが大切です。

③教授法、指導法に対する評価

教授法や指導法*は、学習者の学習目的、学習条件、能力などを配慮して選定されますが、教育を実施している間に不都合が生じてきたり、学習者が不満を抱いたりすることもあります。そんなときには問題の原因を検討し、解消のために他の教授法や指導法を採用する必要があります。また、欧米系の学習者の場合、他の外国語を新しい教授法で学習した経験があり、教授法や指導法について意見を持っている場合があります。そんな場合、学習者の好む方法と異なる方法を強制するのは得策ではありません。

教育のあらゆる局面から検討して、どう教えるかを検討するのがこの分野の評価の目的になります。

※教授法は、(1) 言語そのものの本質を研究し、それをどう教えるかを考察する基礎理論、(2) 人間が言語をどのように習得するかを研究し、言語を学ぶより効果的な方法を工夫する学習理論、(3) それらに基づいて学習者にどのような教材をどのような手順でどんな練習方法で教えるかを検討する教授理論から成り、言語教育の実施方法の基本方針を示すものですが、指導法は、教授法の基礎理論や学習理論の研究から導き出された「具体的な練習方法」を指します。

④学習者に対する評価

学習者の学習状況から教育の成否を判断するための評価です。学習者の能力を測定して、計画どおりの成果を上げているかどうかを判断します。もし、期待したような成果が現れない場合には、教育のいずれかの面に問題があるものと考え、その原因を探求して早急に対応する必要があります。

予定どおり学習者の能力が向上していない場合、次の点を検討します。

- (1) 学習計画に無理はないか： 予定の進度が速すぎないかどうか、学習項目が多すぎないかどうかを検討します。
- (2) 教授法、指導法は適当か： 学習不振の原因が「教え方」に問題があるためなのかを検討します。
- (3) 学習者自身の能力が十分か： 学習者の能力が、目標達成のために求められる学習活動に耐えられるものであるかどうかを検討します。

この分野の評価は、学習者の成績としても利用されますが、本来の目的は、教育が成功しているかどうかを学習者の学習定着度から測定し、問題点を発見し、それを改善に結び付けることにあります。

⑤教師に対する評価

教育の成否を決めるもう一つの要素は教師です。学習者の目的を達成する上で、それを指導する教師が十分な能力、知識、技術を持っているかどうかを判断するのがこの評価です。学習の成果があがらない場合に、学習者ばかりでなく、教師の適否を検討し、不適任の場合には、交代を考えなければなりません。

VII 教育管理の「役割」

教師には「教える」仕事のほかに、出欠の記録や、試験問題の作成・採点、成績の記録、成績表の作成など、学務面の仕事もかなりあります。

以上の7項目が教師の仕事の主な「役割」です。教育機関や教師の地位、経験によって重点の置き方に違いはありますが、教師にはこの種の業務を行う責任があるのです。

2 教師に求められる条件

外国人に日本語を教える日本語教師には、日本人に何かを教える教師とは別の、いろいろな知識や能力が求められます。外国語として日本語を教えるときには、ことばの指導に加えて、学習者に「日本」についてのあらゆる情報を与えなければなりません。日本の文化、習慣、社会に不慣れな学習者が、日本人を相手に日本語を使いこなせるようになるには、言語の技術のほかに、それをうまく使うための知識が必要だからです。

では、そのような教育を担当する教師にはどんな条件が求められるのか、検討してみましょう。

